

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|------------------|------------|-----------|
| 事業所番号 | 0270102262 | | |
| 法人名 | 医療法人蛭慈会 | | |
| 事業所名 | グループホーム蛭 | | |
| 所在地 | 青森県青森市浅虫字蛭谷327-3 | | |
| 自己評価作成日 | 平成30年12月5日 | 評価結果市町村受理日 | 平成31年4月2日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|--|
| 基本情報リンク先 | |
|----------|--|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | |
|-------|-------------------|
| 評価機関名 | 社会福祉法人 青森県社会福祉協議会 |
| 所在地 | 青森県青森市中央3丁目20番30号 |
| 訪問調査日 | 平成31年1月24日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

海・山・温泉と自然に囲まれ、恵まれた環境に立地しており、地域の資源を活用し、24時間温泉入浴が楽しめます。「地域の中で自分らしく生き生きと」という理念のもと、地域の中で家庭的な生活を送ることができます。消防署や警察、地域住民の協力により、いろいろな災害や事故の時の協力体制を整備しており、万全の対策で対応しております。セラピー犬のシロちゃんは同じ空間で暮らし、入居者様の癒しとなっています。母体病院が近くにあり、身体状態の変化に24時間体制で対応でき、健康相談等もすることができます。看取りの介護も行っており、福祉と医療面と連携してケアすることにより、家族の心理的負担に配慮し、「死」への受容とその援助方法について話し合いながら、思い残しなく最期まで安心して暮らせる体制を整えています。また、身体拘束適正の為の指針を作成し、身体拘束廃止に関する取り組み等を全職員が理解しています。全てにおいて、地域住民の理解と協力をいただいております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

| | |
|---------------------------------|--|
| 外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入) | |
|---------------------------------|--|

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|---|---|--|---|
| 56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない | 63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12) | ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | |

自己評価および外部評価結果(2階)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 全職員が地域密着型サービスの役割を理解し、話し合いのもと、ホーム独自の「地域の中で自分らしく生き生きと」という理念を作り、ホールや事務室等の見える場所に掲げ、思いを共有しながら日々のサービス提供場面に反映させ、日々実践に努めている。 | | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 町内にある商店・床屋、食堂等を利用すると共に、町内で開催される敬老会やねぶた祭り、観桜会、町内清掃等に参加したり、ホームの行事やレクリエーションに参加していただいている。道の駅に出かけて買い物をしたり、長寿会で開催される趣味の展示会にレクリエーションで作った作品の出品等、日常的に交流し、ホームを理解してもらおうと共に、交流を図るための働きかけをしている。地域にあるグループ会社の浅めし食堂が交流場所となっており、職員が付き添い、会話をしながらご飯を食べる場になっている。 | | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 管理者が窓口となり、いつでも相談・見学を随時行っている。また、全職員が対応でき、ボランティアの受け入れ態勢も整っており、見学者・入居者へ説明を行い、その際はプライバシーに十分に配慮している。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 運営推進会議は全家族に案内を送付し、参加しやすい時間帯を考え、できる限り参加していただき、ホームでの行事や出来事を伝え、自己評価及び外部評価の結果を説明して、意見を聞き、今後の取り組みに繋げている。取り組んだ意見はすぐに実行し、経過や実践結果を報告している。また、町内の出来事や外部からの情報等、意見交換も行っており、多種多様な内容について話し合っている。開催後は報告書を作成し、全職員へ周知している。会議を欠席された方には議事録・報告書を送付している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|---|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 運営推進会議では地域包括支援センター職員が参加し、連絡を密に取ったり、ホームで作成している蜚新聞を提出し、日頃の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝え、協力関係を築いている。また、自己評価及び外部評価についても、その都度行っている。 | | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束については内部研修を行うと共に、いつでも勉強できるように事務室内に冊子を置き、全職員で理解し、絶対に身体拘束は行わないという姿勢で日々のケアに取り組んでいる。命に関わる理由でやむを得ず身体拘束を行う時は、家族に十分な説明を行い、同意書を交わし、理由・方法・期間・経過観察を詳細に記録している。玄関・居室は施錠せず、開けた時分かるよう、扉にチャイムを付ける等の工夫をしている。また、職員が付き添い、いつでも自由に出入りできるように環境を整えている。夜間は玄関を施錠し、防犯に努めている。無断外出時に備えて近隣住民に協力を依頼し、交番と相談しながら徘徊捜索マニュアルを作成して、連携できている。 | | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 虐待について外部・内部研修で繰り返し、全職員が虐待防止に関する理解を深めている。毎月の職員会議でも取り上げ、虐待防止について日々心がけている。職員は気兼ねなく声の掛け合える信頼関係を築き、虐待が見逃されることがないように努めている。暴力や暴言ばかりでなく、入居者の嫌がることが虐待だと認識している。管理者は日々のケアの提供場面を観察し、未然に防ぐように努めている。 | | |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 日常生活自立支援事業や成年後見人制度について、外部・内部研修で勉強し、理解を深めるように努力している。また、希望する場合には管理者が窓口となり、中心となって支援している。入居者で成年後見制度を利用されている方もおり、全職員が理解し、支援している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|---|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約時には管理者が重要事項説明書に基づき、理念やケアの方針・取り組みについて、入居者や家族等へ十分に説明を行い、分からない時はその都度、質問の時間を設け、同意を得ている。また、退居時も同様に契約書に基づいて十分に説明を行い、不安が生じないような支援を行っている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 2階入り口に意見箱の設置や月1回の家族への手紙に意見・要望の欄を設けたり、入居者の暮らしぶりや健康状態・受診状況・職員の異動を報告している。返信での苦情に対しては迅速に対応し、改善に努めている。出された苦情は受け止め・検討し、今後のより良いホーム運営に活かしている。運営推進会議へ家族に参加していただき、積極的に意見を交換できる環境を整えている。ホーム内では管理者が苦情受付窓口となり、ホーム外の窓口はポスターを掲示し、受付先を分かるようにしている。家族が来園された際は、意見、要望を出しやすい雰囲気作りに努め、コミュニケーションを図っている。また、入居者が苦情を話しやすいように個別対応をしたり、日頃からコミュニケーションを密に取り、信頼関係を築いており、暮らしぶりを観察し、意見を上手に言えない入居者に対しても、察するように努めている。 | | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 毎日の申し送りやミーティング時に職員から出された意見は検討し、業務改善に繋げている。入居者と職員が信頼関係を築けるよう、レクリエーションやコミュニケーションの時間を設け、馴染みの関係を保てるように職員の意見を聞きながら検討している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|----|--|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている | 代表者は職員個々の日々の努力や実績、勤務状況、健康状況を把握し、年2回、健康診断を実施している。職員の健康面についてはいつでも相談を行い、健康を保つための体制を整えている。また、異状があった場合は専門機関の受診に繋げている。労働基準法に基づき、労働条件を整えていると共に、就業規則があり、それを全職員が理解し、代表者が確認し、遵守している。職員の資格取得に向けた支援に力を入れ、資格取得後はそれを活かせる環境を作っている。賞与では勤務努力の評価で支給し、向上心を持って仕事に取り組んでいる。管理者や主任は職員の悩みや相談に乗り、一緒に考え、アドバイスしている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 職員一人ひとりの力量を把握し、職員のレベルに合った外部研修を受講している。また、月1回勉強会を開催し、年間の研修計画を作成・実施している。研修後は復命書により全職員に周知し、日頃のケアに活かせるように繋げている。研修参加者が講師になり、内部研修や勉強会を行う等、全職員が周知している。新任職員には管理者が「認知症の理解」「介護における接遇・マナー」等の勉強会を行い、育成に取り組んでいる。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 東部地域包括支援センター主催の勉強会や10の研修テーマ等の研修、セミナー等に参加しており、他の施設職員と交流や情報交換を行ったり、親睦を深め、日々、サービスの質の向上に努めている。 | | |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 利用開始前に自宅へ訪問し、身体状況の確認のほか、思いや希望等を伺い、利用開始時にあたっての不安軽減に努めている。また、些細な事でも用紙に書き留め、申し送りし、全職員が一丸となり、入居者の希望やニーズ・不安を把握するよう、周知徹底に努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 家族がホームに対して求めていることを直接聞き、入居者の精神・身体状況を確認し、家族の苦労や経緯を把握するように努めている。相談を受ける際は分かりやすい言葉や笑顔で接し、今後についてじっくりと話し合っている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 相談受付の時点で内容を十分に把握し、入居者に何が必要かを見極め、助言や支援を行っている。必要に応じて家族に情報提供している。また、他機関のサービス紹介や地域包括支援センターへ相談している。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 職員は一方的な立場に置かず、共に暮らすという意識を持ち、悲しんでいる時は一緒に泣き、楽しい時は一緒に笑い、痛い時は手当てし、怒っている時はよく話を聞き、共感し、話し合えるような関係作りに努め、人生の先輩から学ぶ、という姿勢で接している。また、入居者一人ひとりに合った手伝いを日々の役割として一緒にいき、張り合いを持てるように努めている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 毎月の手紙のほか、写真を添えて今の状態を伝えている。近隣の家族には、面会時に身体の状態や日々の様子を伝え、遠方の家族には、電話やFAXで伝え、情報交換を行い、共に支え合う関係を作るように努めている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 入居者や家族の話、生活歴等から馴染みの場所等を聞き、把握している。また、いつでも知人等の電話や手紙で連絡の仲立ちを行い、必要に応じて、これまで関わって来た人との交流を継続できるように支援している。いつでも希望に応じて、馴染みの場所に出かけられるように体制を整えている。 | | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 入居者の人間関係を把握して、独立したり、トラブルに発展しないよう、テーブル席や入居者の暮らしやすい場所、居心地の良さを考えている。その人に合った手伝いや役割として、入居者同士が協力し合って行えるように働きかけている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | サービス終了後も蜚新聞や手紙を送付したり、相談や支援に応じる姿勢を家族に示し、これまで築いてきた信頼関係の継続に努めている。退居した家族が遊びに来たり、看取った方の家族が遠方からお墓参り等で来た時には立ち寄ったださっている。退居先の関係者に対し、入居者のアセスメント・生活歴を詳細に伝え、環境や暮らし方の継続性に配慮してもらえるよう、より良い関係を築いている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 職員は入居者一人ひとりに向き合う時間を作り、話しやすい環境の中で思いや希望・意向を把握するように努めている。困難な時は家族等から情報収集を行ったり、職員間で話し合いの場を設け、入居者の視点に立って意向等の把握に努めている。 | | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 入居時に家族やこれまでサービスを受けた機関等より情報を収集し、生活歴やライフスタイル・個性・価値観を大切に把握している。また、日々の暮らし方や会話の中から把握に努め、アセスメントをしている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 既往歴・検査データ・食事・水分摂取量・排泄状況・顔色・皮膚状態・服薬状況・日常生活の観察等から、心身の健康の把握に努め、少しの変化にも気付けるように注意を払っている。また、日々の生活を通してできる事・できない事・できなくてもできそうな事・理解力等を把握している。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | ありのままの事実を収集し、不足しているケアや情報、生活行動に見落としがないか等、アセスメントを詳細に取り、課題は入居者の生活をより良くするためのものなのか、生活に支障はないか、全職員で十分にケアの方針を話し合い、作成している。介護計画はその都度、家族や関係者に意向を聞き、見直している。前向きな介護計画により、職員も前向きな気持ちで課題に取り組んでいる。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 日々の様子や気づき、身体状況を詳細かつ個別に記録し、誰が見ても分かるような内容にし、職員間で情報を共有している。申し送りや気づき等を話し合い、月末にまとめて、計画の実践状況等を記載している。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 母体が医療法人で病院が近くにあり、必要に応じて通院の付き添いや入居者が希望する時は一緒に外出する等、対応している。また、家族の希望があれば外泊や外出等、家族との暮らしの継続を支援している。状態に合わせて家族と相談しながら、法人内にある施設等への転居等も考慮している。 | | |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 安全に暮らせるように地域の警察署や消防署より協力を得ている。災害発生時に協力が得られるように、地域住民から協力委員の承諾を得ており、避難訓練時に参加してもらい、一緒に訓練を行っている。また、地域包括支援センターには困り事を相談し、助言を得たり、情報交換を行っている。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 入居前の受診状況を把握し、母体が医療法人であるため、主治医と24時間連絡が取れる体制となっている。また、必要に応じて家族と相談し、家政婦の付き添いで通院へ行ったり、歯科医院は連絡を取り合って往診できる体制を整えている。受診・往診時の前後には家族に連絡し、納得を得ている。 | | |
| 31 | | ○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 母体が医療法人のため、すぐに相談できる環境にある。週1回の看護師による健康相談を実施し、気になる身体状態等を相談している。2週間に1回の往診時等、入居者の身体状態を見ていただくほか、状態の急変時や事故発生時に備え、24時間連絡体制を整えている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入居者が入院した場合は、医療機関との情報交換を行い、早期退院に向けた話し合いや家族と話し合う体制を整えている。退院後も医療機関と連絡を取り、治療継続の支援を行っている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 重度化した場合の対応及び看取りに関する方針を明確にしている。早期から話し合いを行い、意思の統一を図っている。入居者や家族の希望に沿った対応を心がけ、意向に変化があった場合はその意向に沿って支援している。看取りケアに対して職員の困難や不安はその都度、看護師や主治医へ相談し、連携を密に取っている。 | | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 外部や内部研修で繰り返し勉強すると共に、緊急時の対応マニュアルや連絡網を事務所内に掲示し、誰でも対応できるようにしている。応急手当の対応も内部、外部研修への参加により、職員は身に付けている。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 年3回の避難訓練では火災はもちろん、地震・津波・土砂災害等で日中・夜間や避難しにくい状況の想定を行っており、昼夜2パターンの避難マニュアルを作成している。玄関には津波災害・土砂災害ハザードマップを貼り、全職員へ周知している。地域には住民協力員もおり、一緒に訓練に参加したり、全職員で個別避難誘導について話し合ったり、訓練後の反省会で不明な点がある時は消防署や警察等に相談・協力を得られるように働きかけている。また、非常食や飲料水等の備品を用意し、保管、管理している。 | | |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 入居者一人ひとり、その人の生き方や考え方を理解し、希望や生きがいへと結びつくような言葉かけをし、プライバシーに配慮した対応を全職員が心がけ、不適切な対応にならないよう、注意を払っている。外部や内部研修で認知症について繰り返し勉強し、知識を深めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 入居者一人ひとりの力量に応じて、思いや希望を表せるように働きかけている。言葉で十分に意思表示ができない場合は、日々の暮らしから思いを汲み取ると同時に、会話や表情等から反応を読み取るようにしている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 1日の過ごし方は決まりはなく、可能な範囲で入居者の思いのままに過ごし、職員はそれに合わせて支援している。また、入居者が美容院や散歩等の希望時は天候や身体状態を考慮しながら、可能な限り支援している。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 好みの洋服を入居者で選んで着ていただき、自分で選べない入居者は一緒に選び、決めている。ボタンや襟の乱れは、さり気なく直している。馴染みの理髪店や美容室へ継続して行けるように支援しているほか、希望時にはホームまで馴染みの理髪店が来て、散髪、髭剃りをしている。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている | 年2回嗜好調査を行い、希望や意見を献立作成に活かしている。献立作成時は希望を聞きながら、旬の食材や行事メニューを取り入れ、その人の食生活から好き嫌いを把握し、調理方法を変えたり、代替品を提供している。食事中は必ず側で見守り、時には一部介助しながら、会話を楽しんで食事をしている。 | | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 個別に食事摂取量を主食・副食分けて記録し、必要時には水分摂取量も記録して把握している。嚥下機能が低下している時はその状態に合わせ、刻み食・あら刻み食・ミキサー食等、調理方法を変えて提供して、見た目にもきれいに盛り付けるように工夫している。食べられない時は時間をずらしたり、栄養調整食品を利用して、栄養不足にならないように努めている。糖尿病の入居者には糖尿病食を提供しており、主治医と相談しながら、食事量等に気をつけ、支援している。おかげで合わせて食器を変えたり、美しく盛り付けすることで、食欲増進に努めている。また、月1回の体重、腹囲測定で変化を確認し、食事の量を調整している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後、入居者の状態に合わせた促し方を行い、全ての入居者が口腔ケアを行っている。週1回の義歯消毒や希望時には、歯科医往診で口腔内の掃除・歯磨きの指導等で、汚れや臭いが生じないように支援している。また、勉強会に参加し、口腔ケアすることの大切さを全職員が理解している。 | | |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている | 個別の排便チェック表で記録し、全職員が把握している。また、排便が困難な入居者は個別に詳細な記録を行い、トイレで排泄できるように個々に合わせた事前誘導を行い、自立に向けた支援を行っている。紙オムツやパンツ型紙オムツを使用の継続等の見直しは、随時行っている。便座に座っている時はひざ掛け・カーテンを利用する等、プライバシーに配慮している。 | | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 勉強会の参加で便秘の予防と対策について理解しており、食事に繊維の多い食材、乳製品を取り入れたり、水分をこまめに補給している。また、排便チェック表の記録から、個々の排便リズムを把握している。排便困難な方には起床時に冷水や牛乳を提供し、自然排便を促す工夫を行ったり、楽しみながら歩行訓練を促し、自然排便を個々に促す工夫をしている。運動できない方には、個々に合った対応を工夫している。下剤を使用している入居者の状態を観察し、主治医に相談、指示を仰いでいる。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた支援をしている | 毎日、温泉入浴を行っている。季節毎に菖蒲湯・ゆず・ヒバの木等を入れて楽しんでいる。個別の入浴方法を理解し、温度や洗浄タオルの質等、その方に合わせた最も心地良い入浴になるように工夫している。機能低下の入居者にはリフトを使用して、安全に配慮している。入浴しつらい時は時間をおいて声を掛けたり、楽しみながら入浴できる工夫をしている。また、2階の入居者が1階の浴室で入浴することもあり、入居者間の交流ができています。希望があれば同性介助を行っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 普段の様子と違う時は状態を見て、休息の声かけをしている。寝付けない入居者には原因を探り、ホットミルクやスポーツドリンクを提供している。側へ寄り添うことで安心して安眠、休息できるように支援している。安眠できない方でも、薬にはなるべく頼らないように主治医、看護師に相談しながら、日中の過ごし方から工夫し、夜間へ繋げている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとり使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 入居者一人ひとりのお薬情報を綴り、全職員が薬の内容を把握するようにしている。飲み忘れや誤薬がないよう、1日分の薬を個々に名前を書いた袋に朝・昼・夕と分けて保管し、服薬した後は職員がチェック表にその都度、印鑑を押すこととしている。主治医と連携を取りながら、身体状態の確認は常に行っており、家族へ都度報告している。薬の処方や容量が変更になった時は、お薬情報の差し替えや介護記録・伝達ノートで全職員に周知している。錠剤で飲み込めない入居者には主治医に相談し、粉砕で服薬している。薬剤師とも密に連絡を取り、薬について相談、助言をいただいている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 入居者一人ひとりの生活歴や日常生活から好きな事・得意な事を見極め、一人ひとりが役割や楽しみを持つ支援を行い、日々の張り合い、喜びに繋がっている。おやつ時間の飲み物は、コーヒー・紅茶・煎茶・冷水等は好みの物を飲んでいただけるようにポットを常時、用意している。行事では希望があれば状態を確認しながら、ビール等のアルコールを提供している。冷蔵庫には個人の飲み物や食べ物を保管し、いつでも利用することができる。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している | 日々の会話から楽しみや行きたい場所を把握し、身体状況に合わせて、ホーム周辺の散歩や買い物、外食等の外出支援を行っている。家族から一緒に外出したいと希望があれば、外出できるように介護タクシー等、対応している。ホームのバスを使用し、車椅子の方も一緒に皆で外出し、入居者間の交流を深めている。遠出が困難な入居者には職員が付き添い、ホーム周辺の散策や町内行事への参加等、支援を行っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 職員は入居者一人ひとりで、金銭管理を行う重要性を理解している。希望や力量を把握してお金を保管したり、使用できるように支援している。お金を所持できない入居者は事務室の金庫で預かり、金銭出納帳を作り、その都度記載し、家族と相談しながら必要な物の購入や買い物支援時には支払いを行ってもらおう等、できるようにしている。また、定期的に家族立会いで出納確認を行っている。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 希望時にはいつでも家族に電話できるように対応している。また、家族からの電話も希望時には入居者へ繋ぎ、会話をしている。手紙を書ける入居者にはハガキを提供し、書けない入居者には代筆を行っている。電話の時はプライバシーに配慮して、離れた場所から見守っている。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | ホーム内は木目調で統一し、落ち着いて過ごせる雰囲気となっている。廊下には安全な歩行のため、手すりを設置し、車椅子同士がすれ違いできる広さになっている。ホールにはテレビ・CD・カラオケ機器があり、長椅子や畳でできた小上がりで入居者同士がテーブルでくつろげる環境となっている。広い窓から四季を感じ、心地良い日差しがく差し込み、レースカーテンで調整する等、工夫しているほか、ホーム内の温度にも注意を払い、快適な温度で生活できるよう、オイルヒーターやエアコン等で調節している。季節に合わせた飾りつけを入居者と職員が楽しみながら行い、居室やホールへ飾っている。また、職員の足音や台所での調理器具音には注意を払い、不快な音にならないよう、気をつけている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | ホールには畳敷きの小上がりがあり、昼寝やマッサージを受けたり、多目的に利用されている。また、セラピー犬がおり、各階で入居者の癒しとなっている。椅子の配置を工夫して、外の景色を眺めながらゆっくり過ごしたり、ソファに横になり、リラックスしてテレビを見ることができるようになっている。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 入居時に家族へ認知症の理解をしていただく説明を行い、今まで使用していた馴染みの物を引き続き使用することの大切さを伝えている。仏壇や位牌、鏡台、ぬいぐるみを持って来る等、毎日の心の癒しになっている方もおり、自宅の延長の雰囲気の中で安心して過ごしていただけるようにしている。配置は入居者や家族、職員が一緒に考え、動線確保の工夫もしている。入居者一人ひとりにあった環境になるように好みの装飾等、入居者と話し合いのもと、決定している。 | | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 入居者一人ひとりの過ごし方や身体状態等を把握し、安全な生活動線を考え、食堂テーブル配置や環境づくりを行っている。場所が分からなくなる入居者には、その人に合った目印を設置している。浴槽には滑り止めマットや手すりを設置し、危険回避に努めている。残存機能が失われないよう、できる事や分かる事を行っていただいている。また、身体状態の変化に状況が適しているか、常に話し合い、対応している。 | | |